

事後評価報告書(日中研究交流)

1. 研究課題名:「水田生態系を用いた家畜糞水浄化と水稲生産の可能性とそのリスク評価」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:国立大学法人 東京農工大学 大学院農学研究院 教授 平澤 正

2-2. 中国側研究代表者:浙江大学 自然資源学部 中国科学院 Lv Jun

3. 総合評価:(B)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

豚糞尿の消化液は水田稲作において化学肥料と同程度の肥料効果があることが日中双方で確認された。ただし、日中で結果が一致していない項目については、原因解明に至っていない。こうした理由を明らかにしていくことは、本事業の意図としても意義があると思われる。環境汚染防止のためメタン消化液をさらに浄化処理して利用するか、そのままの状態で行うことができるかについて、両国の規制なども含めて記載して欲しかった。なお、メタン消化液の環境影響評価について、流出水の環境負荷の評価が実施されたのか不明である。環境影響については拙速に結論を出すことは避けることが望まれる。

(2)交流成果の評価について

両国の研究者の交流に加えて、農業法人の視察、北海道大学波多野教授訪問による新たな共同研究への発展など、研究交流の持続的発展に寄与した点は評価できる。ただし、中国への延べ出張日の約半分を平成23年度シンポジウムで占めている。日中の結果の違いを解明するためにも平成22年度での交流があれば良かったと思われる。また、実験技術の共有などを目指して、比較的長期にわたって若手研究者を招いても良かったのではないかとと思われる。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

共同シンポジウムの開催、論文の共同執筆等を行ったことは評価できる。同時に独立して採択された類似課題と共同でシンポジウムを開催し、交流の枠を拡大することができた。論文、学会発表が多いことは評価できるが、両国研究者連名による学会発表がないのは残念な結果である。